a.b.c. 2011 Autumn
architectural bulletin of chikurikai
築理会報2011秋号　2011年12月発行　Vol.48
東京理科大学工学部一・二部建築学科築理会事務局

特集　築理会はどこへ向かうのか？
～築理会の活動内容とこれから～

ここ10年ほどで築理会の活動はますます充実してきた。毎年恒例の総会・懇親会に加え、2011年で３回目となるOB・OGと現役学生との交流会や新年会が開催され、築理会が後援する建築学科作品集「りぼん」も６号目が完成した。各研究室のOB会も今年は盛んに開催されたようだ。今号では、７代目の築理会会長に就任した林新会長のインタビューを交え、築理会の活動の最新事情とこれからの方向性をお伝えする。加えて野田建築会（理工学部同窓会）の活動状況についても寄稿してもらった。まずは2011年５月14日に開催された総会・懇親会の報告から紹介しよう。

平成23年度総会・懇親会の報告

(2011年５月14日開催)

総会

71名の参加の下、石神会長の挨拶に始まり林副会長の平成22(2010)年度活動報告の後、平成22年度決算・平成23(2011)年度予算が拍手をもって承認されました。

今総会では、役員改選も行われ林孝夫副会長(1部、69年卒)が新会長に、また、野田正治氏(1部、70年卒)他６名の新役員が選任されました。石神一郎氏（1部、70年卒）の４年間にわたるご活躍に敬意を表するとともに林新会長のさらなるご活躍が期待されます。

総会終了後、恒例の講演会が開催されました。今年は、「世界遺産と20世紀の建築・都市」の演題で東京理科大学工学部建築学科准教授山名善之氏（Ⅰ部90年卒）に80分間に渡って熱のこもったご講演をいただきました。

講演会　山名先生の熱演

懇親会

2011年４月にオープンした理科大運営の「ＰＯＲＴＡ神楽坂」で塚本理事長・沖塩名誉教授他10名の教授

真鍋先生他多数の建築学科の先生方

塚本理事長の祝辞

をお迎えして、盛大かつ和やかに懇親会が開かれました。

林新会長の挨拶、塚本恒世理事長・倉渕隆Ⅰ部主任・河野守Ⅱ部主任の来賓挨拶の後、藤森正純副会長（1部、71年卒）の乾杯でスタートし、新生「ＰＯＲＴＡ神楽坂」は、80名を越す同窓の熱気に包まれました。また、ドリンクコーナーでは、在校生（５～６名）の手伝いもあり、在校生から卒業生（1期～９期・29名、10期～19期・22名、20期～29期・17名、30期～38期・２名）まで交流が広がり、90分がアッと言う間に過ぎ去りました。

校歌斉唱・写真撮影の後、渡辺一男副会長（1部、72年卒）の手締めで幕が閉まりました。

来年は100名を越す同窓の参加を期待し、さらに盛大な会にしたいものです。(乙丸勝範＝Ⅰ部1971年卒)

就職活動開始を目前に控えた2011年11月20日、九段校舎で築理会OB・OGと現役学生との交流会が開催された。各業種の最前線で活躍するOB・OGが建築実務の最新の情報を学生たちに伝えた。

第３回OB・OGと学生との交流会

(2011年11月20日開催)

11月20日、今年で第３回となるOB・OGと学生との交流会が開催された。20人の建築学科OB・OGが九段校舎に集い、12月から就職活動に臨む修士１年生、学部３年生を中心とした現役学生たちに建築業界の各職場のリアルな仕事内容を伝えるとともに、活発な質疑応答を行った。交流会の司会は会報委員会の安

「りぼん」第６号の完成を報告する制作委員会の面々

達（Ⅰ部86年卒）が担当した。

交流会に先立ち、東京理科大学工学部建築学科作品集「りぼん」の完成を同制作委員会代表の村田真理子さんが報告した。6号目となる「りぼん」は今年からカラー化してパワーアップ。修士設計、学部授業や学生有志の活動についても収めた学科全体の記録へと進化していることをOB・OGたちに伝えた。

交流会ではまず、この秋に『「就活」学生のための建築界図鑑2012』という書籍を編集した日経ＢＰ社の森清さん（Ⅰ部85年卒）が、就職活動へ臨むに当たっての心構えについて話した。話題はエントリーシート

編集した書籍を片手にレクチャーする森さん

の書き方から、最初の面談の受け方まで、具体的な内容を掘り下げる。「入社試験を受ける企業のことをよく勉強すること」「ほかの人と一味違うと思わせることを言わないと今の就職戦線を突破するのは難しい」など、厳しい就職活動へ臨む学生への実践的なメッセージを送った。

続いて、建設会社、設計事務所、デベロッパー、ハウスメーカー、公務員といった様々な分野で活躍するOB・OGたちが、それぞれの分野ごとの仕事の特徴と、「求める（求めない）学生像」について話した。

建設会社で活躍するOBからは、求められる人材の条件として「何より明るく元気な人」「向上しようという意識の強い人」という声が共通して挙がった。また設計事務所の同窓生からは「クライアントと一番長く付き合う仕事だから、きちんと対話していく能力が大切」「顧客との信頼を築くためにきちんと説明する力と提案能力が必要」「独立系アトリエでは伸び代とコミュニケーション能力が重要」など、対話・提案・コミュニケーションなどのキーワードが提示された。

商品企画から許認可、販売まで一連の流れにかかわることの多いデベロッパー勤務のOBからは「粘り強いコミュニケーション能力に加え、リスク管理のアンテナ感度が重要」「一連の仕事で同窓生といっしょにプロジェクトにかかわることもある。いろいろな人とかかわりながら仕事をまとめるバイタリティーとこだわりが必須」など、技術や知識に加え、マネジメント能力の重要性が指摘された。国家公務員として活躍する同窓生からは「やる気、元気、普通の感覚が大事。

後半は学生たちの質問に答える形で進行。
竹中工務店の増村さんは建設会社の仕事について熱弁を

なかでも普通のことを普通にできるかどうか。建築の知識に加えて社会人基礎力が必要」という言葉とともに、来年から変わる公務員採用制度の概要などの説明があった。

後半は学生との質疑応答だ。学生たちが事前に話し合ってくれた内容を基に「建築業界以外の職種ではどんなものがあるか」「自分の会社が良いと思った瞬間は」「理科大生で良かった瞬間」「社会人になって失ったもの」「ほかの専門分野の学生に求めるものは」などの質問が次々に飛んでくる。OB・OGからは「建設分野はこれから海外の需要を求めて攻めていく必要がある。海外ではただ単に建てるだけではコストの安い外国勢にかなわない。アッセンブルが難しい分野でいかに競争力を持つかが重要になる」「理科大の建築学科が創設された当初の先輩たちは、パイオニア精神で仕事を切り開いていった。君たちもポジティブに自分で答えをつくっていってほしい」などの熱いエールが、学生たちに送られた。

交流会は当初の予定時間を超えて盛り上がり、そのままアルコールを片手にしながらの懇親会、そして二次会へとなだれ込んでいった。厳しさを増す就職戦線だが、優秀な後輩たちは、20年後、30年後の日本と建築のあり方をしっかり見据えて力強く進んでくれることを信じている。

（安達功＝Ⅰ部1986年卒、会報委員会）

交流会に参加してくれたOB・OGたちは、以下の方々。
大岩昭之、林孝夫、石神一郎、古池廣行、神前佳秀、杉田宏一、平林勇一、佐野吉彦、稲垣雅子、増村清人、真鍋喜嗣、近藤剛啓、荒川圭史、森清、安達功、戸沢正美、角浩志、金林義隆、三浦博範、深野有紀、杉本由美子

築理会も後援する東京理科大学工学部建築学科作品集「りぼん」は今年で６号目となった。会報委員の野田さんが制作に携わった学生たちに卒業設計の現状や制作の苦労などをインタビューした。

「りぼん６号」完成

「りぼん」とは何か、また築理会との関係

靖国神社の銀杏並木が色づきだした頃、建築学科の九段校舎を訪れた。「りぼん」は(理(リ))科大の(本(ボン))という当て字と「結ぶ」りぼんを表したネーミングだそうで、主に大学院に進んだ修士課程の卒業設計の発表の場がないことから作成され、もうすでに今回で６号になるという。

基本的には修士課程の人達の自費出版となるわけで、作成にあたる学生は計画系の研究室から一人ずつ選ばれた６名（村田真理子代表、山崎杏奈、太田さくら子、内山亮平、新井聡、竹田和行）が当たっている。それでは資金的に大変だろうということで、築理会からも寄付金という形で援助されていて、その他に協賛企業や出品した学生から徴収しているとのことであった。学科からの買い取りもあるが、多少の余裕が出るように、繰越金を後輩に残す努力をしなければならないことがプレッシャーとなっているようだ。

「りぼん」作成の苦労

内容は計画系学生の卒業設計が主となるが、学部の課題の優秀作品も掲載されている。制作はパソコン上でおこない、デザインソフトを使って編集しているそうだ。要するに彼らが作成したものが、印刷の版下となるわけで、結構な作業量となると思われる。

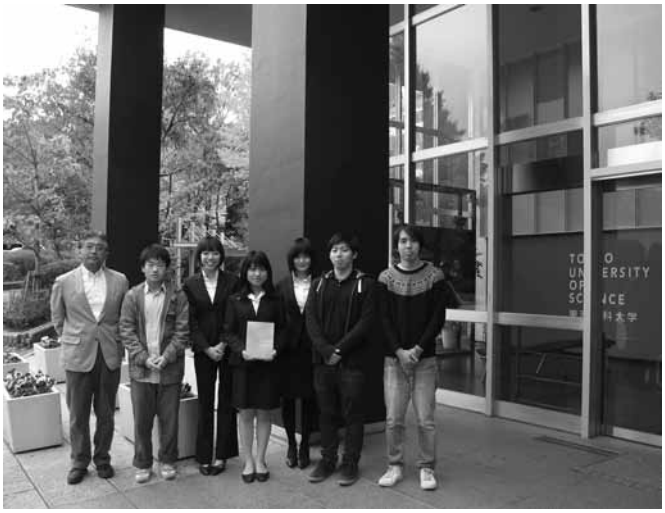
今回彼らが一番重視したことは、次に繋げる努力をしたことであった。これは太田さんが語ったことで、インタビューをする人間にも何か重要な示唆であった。彼等は計画系の研究室から一人ずつ選ばれただけで、当初何をしたらよいか、さっぱり要領を得なかったそうで、後輩のために作業記録を残そうということになって今回初めて実行したと胸を張った。確かに、重要なことであって、６回にもなれば伝統というか、そのようなアイデアも出てくるのだろう。何事も継続が肝心なのだろうと、感心した点であった。

卒業設計の今昔

学部の卒業設計の現在について聞いてみた。卒業設計と卒論は選択でどちらかを出せばよいとのことで、５期の私達のように共に必修だった頃に比べると、はるかに軽減されている。但し、後輩が先輩を手伝うこともあるようで、そのあたりは変化ないようだ。

提出時期が大学入試と重なって、教室の使用がなかなか難しいが、申請さえすれば徹夜もＯＫとのことで、その点は改善されている。

九段校舎は都心の一等地にあって、神楽坂とは趣が異なっているが、それが設計に影響が出るのかも知れないなと思いながら校舎をあとにした。その点は６号のりぼんを見て確かめてみようと思う。金町移転が決まるなら、それもどのようなことになるのか、先のことはわからない。どちらにしても後輩の未来を祈るばかりであった。　　（野田正治＝Ｉ部 1970 年卒）



編集委員の学生と九段校舎１階エントランスにて、右から内山亮平、新井聡、太田さくら子、新しい「りぼん」を持つチーフ村田真理子、山崎杏奈、竹田和行、記者野田の順

野田建築会(理工学部同窓会)の活動状況

築理会会報の紙面をお借りして、最近の活動状況について書かせていただきます。

野田建築会は、主要な活動として、会報の発行、野田建築会賞（NAA 賞）の授与、「OB と語る会」の開催、見学会の実施及び野田建築会 Web サイトの運用などを行っています。

６月 30 日（木）に今年度の第１回「OB と語る会」を開催しました。講師にヤマザキ建築企画設計の山崎晃弘さんと鹿島建設の市野雅之さんをお招きし、山崎さんには「就職とは？自分の適性とは？　～実体験を踏まえて」、市野さんには「ゼネコンの仕事」と題してご講演いただきました。

10 月 20 日（木）に見学会を行いました。

今回の見学先は、昨年 11 月に竣工した大林組技術研究所本館「テクノステーション」です。見学には、総勢 17 名が参加しました。この研究施設には、最先端の研究環境、環境配慮及び安全安心の３つをコンセプトに掲げ、多くの先進的な技術が適用されおり、そうした施設を見学することができました。見学後には、窓際ゾーンの光と熱の制御、自然換気システム、スーパーアクティブ制震システムなどについて活発な質疑応答がなされ、大変有意義な見学会となりました。

（菊地利武＝野田建築会会長、1971 年卒）

平成 23 年度活動計画と各委員会

築理会活動計画

・常任幹事会は年間４回開催（内１回は幹事会）
　常任幹事会及び幹事会の役員が活動の実施の方向性を決定している
・企画総務委員会は年間４回常任幹事会及び幹事会の前に議題を協議し、常任幹事会及び幹事会提案する。
・5 月に総会懇親会を開催している

各委員会活動

・会報委員会は築理会報を春、秋の年間２回発行している
・情報委員会はホームページを持って会員に情報提供している
・名簿委員会は名簿を２年から３年に１回発行している
・運営安定化委員会は会費徴収・寄付金等による運営安定化について検討している
・築娯会は終身会員のゴルフコンペを年間２回開催している
・現場見学会を開催している
・10 月のホームカミングデーに参加している

学生・学科への支援活動

・築理会賞の表彰は３月ごろⅠ部Ⅱ部の学業の優秀学生及び卒業制作の優秀学生を表彰している。卒業制作の優秀学生は OB の審査員が学部、学生、OB 有志が参加する公開コンペで選ぶ。
・りぼん制作支援は毎年卒業制作の作品を集めた「りぼん」を出版する資金支援をしている
・学科学生と OB の交流会を年１回 11 月頃に開催している
・工学部創立 50 周年記念事業への協力をしている

7 代目築理会会長・就任挨拶

築理会は 2011 年 40 周年。さらに、来年は工学部創立 50 周年の節目の年になる。今年 5 月の総会で 7 代目会長に就任された林孝夫会長に、最近の築理会の取り組みや今後の築理会にかける思いについて聞いた。

風通しの良い築理会に

1971 年に誕生した築理会も今年で 40 歳になります。発足当時は 50 名足らずだった卒業生も、今や 6700 名の大所帯となりました。年代層も広がり、育ったプロセスも時代も違うたくさんの会員を一つにまとめることは至難の業と言えます。築理会の組織も運営側が高齢になってきており、建築に対する熱意に燃えた若い世代とのジェネレーションギャップもあるとは思います。しかし、「会員の親睦をはかり」「会員の研さんを相互に支援して」「建築および文化の発展に寄与する」という築理会の変わることのない大きな目的があります。これから先の築理会の運営のためには、どんどん今の若い会員の考えも取り入れながら進めていく必要があります。

そのためにも、環境や世代が違っていても、フランクに考えることを言え、会員同士が相互に交流を深めながら成長していける風通しの良い築理会にしていきたいと思っております。

学生や会員同士との親睦を深める様々な取り組み

この数年、築理会では若い世代、特に現役の理科大生、大学院生との交流も積極的に深めてまいりました。11 月に開催している学生と OB、OG との交流会もその一つです。この交流会には各業種でばりばりと活躍している OB、OG が参加しており、昨今の厳しい就職活動のなかでがんばっている学生にとって、少しでも参考になればと開催しています。OB、OG にとっても、改めて他分野で活躍する会員の話を聞く機会となっております。築理会も歴史を重ねることで、ゼネコン、設計事務所、材料系、教育機関など、様々な分野に人脈が広がっています。築理会発足時に比べ、いろいろな情報が入ってくるようになっていますので、若手の今後の進路や知識を深めるためのよきアドバイザーになれればと願っています。

また、学科４年生の卒業設計を対象に、卒業生が最も優れた作品を選ぶ「築理会賞」も学生との絆を深めることにつながっています。建築界で実際に仕事をしている卒業生達が選考するので、審査会は予想以上に盛り上がります。さらに、学生達自ら編集・出版をする作品集「りぼん」への協力などを通じて、将来の建築界を担う若い世代の力になれればと活動を続けています。

そのほかにも、新年会や総会懇親会、現場見学会、ゴルフコンペなど、会員同士の親睦を深める様々な機会を年間を通じて予定しております。会員のみなさんにご協力をいただき、今後さらに、親しみやすい築理会の運営をしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。（林孝夫＝Ⅰ部 1969 年卒）

■平成 23 年度の役員

会長＝林孝夫
副会長＝片渕利幸、乙丸勝範、藤森正純、渡辺一男、三輪冨成
企画総務委員長＝乙丸勝範
運営安定化委員長＝渡辺一男
名簿委員長＝田中治
広報委員長＝佐野吉彦
情報委員長＝塚田敏彦
会報委員長＝安達功

武井研 OB 会開かれる

武井研 OB 会が 20 数年ぶりに、11 月 12 日（土）理窓会倶楽部（PORTA 神楽坂 6F）で開かれた。出席者は武井正昭先生はじめ、卒業生 45 名。まず司会の森田敬介氏（24 期）、司会アシスタントの堀米理江子氏（14 期）が紹介され、発起人代表として大岩昭之（3 期）が挨拶をした。OB 代表として立花直美氏（1 期）が理科大の創設期の研究室の話などを話された。その後、武井先生の挨拶、卒業生がそれぞれの道で活躍されているのを喜んでおられるなどの話をされた。そして中村弘道氏（1 期）の乾杯の音頭で歓談に入った。武井先生も 84 歳とのことであったが、お元気で皆さんとの歓談に加わられていた。しばらくの歓談の後は、期の代表の方々などの挨拶などが続き、研究室の頃の話で弾んでいた。そして、約 2 時間はまたたくまに過ぎ、最後のセレモニーは紅 2 点の堀米さんから先生への花束贈呈、記念写真の撮影、幹事の紹介、そして野田正治氏（5 期）による中締めでしめくくった。

今回の OB 会、武井研の卒業生は 270 名、内 6 名の方が亡くなられているが 221 名とは連絡がついた。これには今回の調査でいままで名簿上で不明者になっていた 20 数名も含まれている。出席者が 45 名だったのは予想していたよりは少しすくなかったが、欠席の返信をいただいたのは 67 名（これを含めると計 112 名）だったので、50% を越える方々に関心を示していただいた。今回参加されて、神楽坂校舎も大きく変わったこと、またこのような新しい会場・理窓会倶楽部があるのを驚かれている方も多かった。武井研 OB 会、今回を機会に今後も続けていこうとの話もでていたので、次回はまた、多くの皆さんが参加されることを期待している。

（大岩昭之＝Ｉ部 1968 年卒）

「二見・平野研究室　ＯＢ会の開催について」

去る 11 月 4 日（金）に、新中野の構造計画研究所　本所新館において、「二見・平野研究室 OB 会」を開催しました。なお当日は OB 会に先立ち、世界初の三次元免震建物「阿佐ヶ谷プロジェクト知粋館」の現場見学会も併せて企画しました。

平日の夕方という時間設定にもかかわらず、現場見学会については平野先生を始めとして 13 名の方にご参加いただきました。初めての企画で不安な面もありましたが、参加者の皆様からはご好評を頂き安堵いたしました。また、雨に降られないかをヤキモキしていましたが、参加者の皆様の人徳のおかげか、なんとか雨に降られることなく見学会を終了することができました。

現場見学会後に実施した OB 会については、42 名の研究室 OB の皆様にご出席いただきました。幹事からの開会の辞に始まり、ご来賓の平野先生より、お心のこもったご挨拶を頂きました。そして、OB のＩ部 1 期の原晃氏より乾杯の音頭をとっていただき、歓談へと移りました。なお歓談中には、当日出席された OB の皆様全員に、近況報告等を兼ねて短いスピーチを話していただきました。また、やむなく当日欠席された OB の皆様

から頂戴したメッセージ等についても、会場に設営したプロジェクターにて上映いたしました。

その後、次回ＯＢ会の幹事より挨拶を行い、最後に出席者全員の三本締めによる閉会で、盛会のうちに、無事に二見・平野研究室 OB 会を終了することができました。これもひとえに平野先生及び OB の皆様の御協力によるものと深く感謝申し上げる次第でございます。今後も、皆様のご支援と、次回の二見・平野研究室 OB 会のご参加をよろしくお願い申し上げます。

＜幹事談１＞ＯＢ会の会場について、（ホテル等の施設ではなく）幹事の会社にて実施したため、事前の準備（会場や受付の設営、撤収、備品等の準備）が大変でした。会場の設営や撤去、飲食物や備品の手配や買い出し、及び受付の補助について、幹事二人のみでは対応しきれなかったため、幹事（高橋）の会社の部下の方々に多数のご協力を仰ぐこととなってしまいました。

＜幹事談２＞前回のＯＢ会幹事から引き継いだ住所録により案内を送付しましたが、宛先不明で多数の案内が戻ってきてしまいました。その後に色々と再度検索を試みましたが、結局 40 名程度の方々の住所が不明のままでした。それ以前からの不明者も含めると、年々連絡が取れなくなる方が増えてしまっているのが残念です。

（二見・平野研究室　ＯＢ会幹事
高橋治、荒井祐介＝Ｉ部 1989 年卒）

「元気な学生」

2050 年の都市環境を提案

宇野研究室は、第 24 回世界建築会議 (UIA2011) のメインテーマ「DESIGN2050」に呼応した展覧会「東京 2050//12 の都市ヴィジョン展」にて、2050 年の未来像を発表しました。

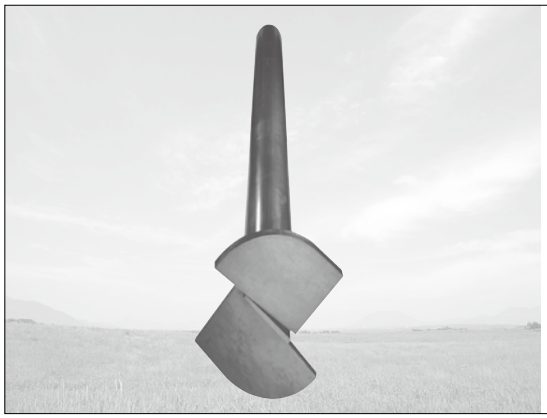
「まだらなまち」と題した本提案は、21 世紀の科学技術の知見にもとづいて、東京の土地が持つ自然を再評価し、その形態と形質を可視化するとともに、新しいライフスタイルを実現できる自然な都市環境を 2050 年の東京に挿入しようとするものです。

現代の東京は道路や鉄道やビルやマンションなどの人工物が圧倒的に優位な都市となり、均質な近代都市計画と近代建築によって土地が被われ、自然物が持ち合わせている「ゆらぎのある形」が見えなくなりました。そこで、過剰に人工化された不自然な東京を部分部分から修復し、自然な都市環境へと更新することを目指し、自然とともに、自然にならい、自然に暮らす、都市の環境を構想し提案します。

対象地は本郷台地から上野の山を経て浅草までの地域です。本来的には、自然が優位でまだらな形態と形質をそなえた地域でした。近代東京における第一世代の山の手の下町ともいえるこの地域から 21 世紀の東京は生まれ変わり、自然物と人工物が混合し土地に合わせて「自然な建築」がたち並びます。

さまざまな人と多様な生き物が共に暮らすための新しい都市となる「まだらなまち」は、現代と自然、ビル街と自然生体の混合する都市環境に、内外のさまざまな職種、年代、国籍の多数の人々が訪れ、暮らす、あるいは短期滞在し、中期居住し、長期定住する「2050 年の都市」のモデルとなります。

村松秀美（宇野研究室 修士２年）



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転貫入鋼管杭ジー・エクス・パイル
G-ECS PILE®

http://www.sansei-inc.co.jp

営業品目：建築工事における基礎杭の開発・販売・施工/建築工事における各種杭の技術提案

※　技術開発スタッフ募集中

株式会社 三誠
SANSEI INC.

本　社　〒103-0015　東京都中央区日本橋箱崎町 20 番 3 号　箱崎公園ビル　TEL:03-3639-5226 / FAX:03-3639-8162
関西営業所 / 北関東営業所 / 茨城営業所 / 新潟営業所
（昭和 48 年　工学部建築学科　代表取締役　三輪富成　・　専務取締役　小川ひろし　他２名）

「活躍する卒業生」

今回は、「環境振動に関する感覚評価の特性の解明とその性能評価手法に関する一連の研究」により、2011年度日本建築学会賞（論文）を受賞された11期（1976年）卒業生の石川孝重さんに伺いました。

皆様こんにちは。日本女子大学の石川孝重です。私が理大へ入学したのは1972年。その2年前に高校を卒業しましたが、当時はいわゆる学園紛争の頃で、高校がバリケード封鎖されていて授業はなく、部活と読書と論破にいそしんでいました。少し考えにかぶれたこともあって、高校卒業後2年間は今でいうプータローで自由生活を満喫していましたが、そろそろと思い立ち試験日の早かった理大を受験しところ電気と建築に合格し、自由性の高い建築に進学しました。入学後、極めて出席者が少ない政治学の授業をたった一人で受けた記憶が今も鮮明にあります。卒業研究は、意匠系・構法系・構造系の研究室を迷いましたが、結局平野道勝先生の研究室へと進み、「合成梁の押し抜き実験」を卒業論文のテーマにしました。同期の友人が大学院に進むというので私も大学院に進学した感じで、今思えば目的が希薄だったように思います。修士1年からドクターコースが終わるまでTAだと思いますが、学部の構造力学の演習を担当したこと、当時の卒論生と一緒になって研究し指導したことが今につながっていると思います。博士課程は4年間で「合成梁の挙動にスタッドコネクタが及ぼす影響に関する研究」を纏めました。その後、企業の技術研究所に決まっていた就職を4月間際で断って小山高専に奉職しましたが、高専も2年間で日本女子大に移ることになりました。この時若干32才で若かった。その後転職の機会もあった割には今でも同大学に在職しているのはこれ如何に。女子大では、夏休み前に前期試験を終了する日程への変更を皮切りに、一般教育課程の解体、創立百周年記念事業の「生涯学習総合センター」の設立準備とセンター所長、「学園活動評価・戦略室」の新設と室長就任、大学院研究科委員長（評議員・理事）を経て、現在は学部長（理事・評議員）で還暦を迎えました。その間では、1995年度にカナダのブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）に行かせてもらった1年間の客員助教授の研修経験が忘れられない思い出であり、今はサバティカルの取得だけが望みの日々を過ごしています。

日本女子大石川研究室のＨＰのＵＲＬは
http://mcm-www.jwu.ac.jp/~jyu-ishi/isikawa/

女子大にきてからは、建築のハードだけでなく、住まう、生活する人たちを主語に建築・住居を考えるようになり、研究テーマに広がりが出来、構造安全性の成り立ち・歴史や、荷重、使用性能、建物の揺れ（振動）性能（居住性）と展開してきました。広がりはあるものの、どれも最終的には建物の設計に有益となるようにと研究活動を行ってきたつもりであり、この結果が2011年度日本建築学会賞(論文)につながったものと思います。また、建築主や建物利用者・居住者の視点から建築を捉えることなどを積み重ねるうちに、建築を社会基盤にしっかりと位置づけることが重要で、その追求から「建築社会学」の提唱になり、さらに建築倫理への展開に続くことになりました。取り組んでいる研究テーマなどの詳細は当研究室のHPをご参照下さい。住まう・利用する立場で建築を考える、これが今日の私の研究テーマの根底にあるように思います。今、3.11を経験し、近々来るであろう首都直下地震への対応に全力を注ぐことを心に決めました。

現役の学生さんには、理大の授業を担当しなくなってから久しいので的外れになる可能性もありますが、敢えていえば技術的なジャッジメント（人の判断が大事）のできる広い意味での技術者になってもらいたいと考えています。そのためには、判断対象のミクロな事象にとらわれず、巨視的な視野からの判断が重要であり、このことを常に頭に置いてほしいと強く願っています。

〔編集委員後記〕石川先生ご本人はこの文面では述べられていませんが、同期で入学し、卒業研究・修士課程と3年間同じ研究室で過ごした今回の担当者の印象としては、石川先生は兎に角生活態度が真面目で、時間を惜しまず何事にも真摯、且つ一途に打ち込まれていた方であり、この人は研究者や教育者になるのが一番と見ていました。その一途に、そして熱心に打ち込まれ続けてきた結果が理大卒業生として初めての今回の日本建築学会賞受賞という快挙に繋がったと信じて止みません。石川先生の益々のご発展、ご活躍を同期生、理大卒業生として心から願う次第です。　（荒井眞一郎＝Ｉ部1976年卒）

1級建築士試験 合格者の半数以上は、総合資格学院の受講生です！

当学院教室開講都道府県 合格者占有率 No.1

平成22年度 1級建築士設計製図試験
47都道府県中34都道府県で開講
当学院教室開講都道府県 合格者占有率 50.0%
<平成22年12月19日現在>
当学院教室開講都道府県 合格者数合計 4,189名のうち 当学院合格者数 2,096名

平成23年度 1級建築士学科試験
47都道府県中34都道府県で開講
当学院教室開講都道府県 合格者占有率 50.5%
<平成23年9月7日現在>
当学院教室開講都道府県 合格者数合計 4,843名のうち 当学院合格者数 2,447名

※都道府県合格者数は、(財)建築技術教育普及センター発表の受験番号より算出。 ※上記,当学院開講都道府県合格者占有率には,1級設計製図講座・学科講座を開講していない青森県,岩手県,秋田県,長野県,鳥取県,島根県,愛媛県,高知県,佐賀県,長崎県,大分県,宮崎県,沖縄県の合格者は含んでおりません。※上記エリアから隣県の当学院開講教室にて受講し合格された方は,合格実績に含んでおりません。 ※総合資格学院の合格実績には,模擬試験のみの受験生,教材購入者,無料の役務提供者,過去受講生は一切含まれておりません。

平成22年度 1級建築士設計製図試験
【合格者合計 139名中　総合資格学院受講生91名】
東京理科大学卒業合格者の65.5%が総合資格学院の受講生でした。
※卒業学校別合格者数は,試験元である(財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。※総合資格学院の合格者数には,「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。

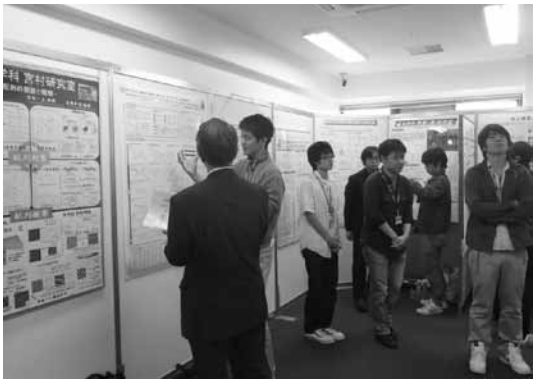
平成24年度受験 受講生募集中!!

無料 体験入学 随時受付中
1級 2級 建築士
1級/2級 建築施工管理技士
宅地建物取引主任者
インテリアコーディネーター
構造計算コース〈実務講座〉

総合資格学院
すべては「合格」のために
TEL：03-3340-2810
総合資格 検索 www.shikaku.co.jp

第 6 回ホームカミングデー開催

10 月 30 日（日）に神楽坂キャンパスで「ホームカミングデー 2011」が開催され、昨年を上回る 4100 人の理科大 OB/OG でにぎわったそうです。築理会も、同窓出会いの場でパネル展示をしたり、ステージでライブ演奏したりと、大活躍だったようです。



研究室を紹介したパネル展示

さて、「そうです」「ようです」などと、他人事のような不謹慎な書き方をしたのは、つまり私は予定があって参加できなかったからですが、ではなぜ不参加の私がこの原稿を書いているのか？

私ごとになりますが、実は卒業以来 20 年間、完全に母校を遠ざかっていました。それが昨年、ひょんなことから築理会幹事？ さらには築理会報誌の編集委員と、分不相応にも“大抜擢？”され、久方ぶりに花屋を曲がって路地に踏み込むことになったのです。

以来、母校の進化ぶりには驚くばかりですが、先日の編集委員会でホームカミングデー開催の話を聞き、「これまたずいぶん進化したものだ」と、思わず感嘆の声をあげてしまったところ、今回の執筆の御指名が下った次第です。20 年間も離れていただけに、母校の発展ぶりは鮮やかに映り、どこか誇りのようにも思えます。

というわけで、肝心のホームカミングデーの紹介からだいぶ脱線して、私的なホームカミングの感想文になってしまいましたが、来年はぜひ参加してみたいと思います。ちなみに添付の写真は、もちろん私が撮ったものではなく、築理会の前会長・石神一郎さんにご提供いただきました。　（松浦隆幸＝Ⅰ部 1990 年卒）

ふれあいライブステージではライブ演奏も

平成 23 年会費納入のお願い

現在、平成 23 年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費　3,500 円
加入者名　築理会
口座番号　郵便局　00110 － 5 － 171952

２３年度寄付報告

当日に会費を徴収する同窓会・新年会ゴルフコンペを除き、築理会報・名簿発行・学生支援等の活動は会員の皆様から納入された会費並びに悠氏からの寄付で運営されております。現在、会費の納入率は極めて低く大変苦しい運営状況になっております。今年度寄付をしていただきました皆様には紙面を借りて御礼申し上げます。りぼん制作への支援等有効に使用させていただきます。

２３年度寄付者名簿 (敬称略)

1966 年卒	松尾　稜威	池松研	
1966 年卒	三松　一宇	井口研	
1967 年卒	鴻巣　良三	浜田研	
1967 年卒	小山　一郎	武井研	
1968 年卒	河野　茂麿	二見平野研	
1968 年卒	福田　義克	井口研	
1969 年卒	林　孝夫	森脇研	
1970 年卒	石神　一郎	二見平野研	
1970 年卒	椿　康子	二見平野研	
1970 年卒	古池　廣行	名古路研	
1971 年卒	乙丸　勝範	二見平野研	
1971 年卒	小嶋　美行	小木曾研	
1971 年卒	藤森　正純	武井研	
1971 年卒	持田　秀明	碓井研	
1972 年卒	柏山貢四郎	二見平野研	
1972 年卒	山ノ井義重	浜田研	
1972 年卒	渡辺　一男	碓井研	
1977 年卒	岡田　雅人	幸田研	
1981 年卒	石橋　敦之	沖塩研	
1982 年卒	林　邦彦	清水研	
1983 年卒	竹藤　和弘	久我研	
1983 年卒	宇野与四郎	松崎研	
1995 年卒	古藤　武彦	鈴木研	
2003 年卒	津島　健二	篠崎研	
2011 年卒	川村　亮真	辻本研	

「 編集後記 」

今号では築理会の活動内容を紹介しました。あらためて記事全体を読むと取り組みの広がりを実感します。なお 2012 年最初のイベントとなる新年会は 1 月 25 日（水）の 18 時 30 分～ 20 時 30 分、ポルタ神楽坂 6 階の理窓会倶楽部で開催されます。ぜひご予定に組み入れてください。（安達功＝ adachi@nikkeibp.co.jp）

築理会報 2011 秋号

2011 年 12 月発行　Vol.48

発行所　：東京都新宿区神楽坂 1-3
東京理科大学工学部一・二部建築学科
築理会事務局　会員問合せ　chikurikai@gmail.com
FAX　03-5213-0976

編集長　：安達　功

編集委員：石神一郎、大岩昭之、野田正治、藤森正純、荒井眞一郎、広谷純弘、増村清人、森清、伊藤学、松浦隆幸、山名善之、平賀一浩、栢木まどか、深野有紀、大槻尚美、野村奈菜子

印刷発送：グローバルシステム株式会社